

社会科学見学はNYを知ることに通ず

IT産業のお膝元の西海岸に対し、ニューヨークは幅広い産業がひしめき合う、活気あふれる大都市だ。それだけに、今回フォーカスする企業や政府機関、非営利団体などの会社・工場見学も、多様で面白い。

社会科学見学の魅力は、単にオフィスや工場に足を運ぶ、現在の姿やあり方を知るだけでなく、ニューヨークやアメリカの深い歴史と対峙(たいじ)することにあるだろう。

高級ピアノブランド「スタインウェイ&サンズ」のアストリア工場は、約100年前にマンハッタンからアストリアに移転したという。企業城下町として、従業員のために教会や学校、病院が造られ、「スタインウェイ・ビルディング」が形成されたという歴史がある。同企業は今でも、同じ工場から世界に向けて最高級のピアノを届け続けている。

また、ブルックリンで催行されているビールツアー

も同様だ。1800年代初頭には、米国全体のビールシェア約10%を占めていたという同区。しかしながら、1920年から突入した禁酒法時代により、産業の終了を余儀なくされたという歴史なども、ツアーの中で語られるから面白い(いずれのツアーも、詳細は5ページ参照)。

新旧が交差する新名所はNYならではの魅力

かつてのアメリカ海軍の造船施設を再開発している「ブルックリン・ネイビヤード」は、1800年代前半の建物をモダンにリノベーションした上で、屋上庭園を設けたり、ソーラーパネルによる発電や、雨水

の浄化システムを建物内で行ったりと、エコシステムを導入に力を入れている。一般向けツアーでは、古いものを現代風に変換し、これからのニューヨークを支える中小企業を支援するという、同施設の働きを学ぶことができる。

スタートアップ支援の環境として新興企業を集め、当時のネイビヤードのウエアハウス(倉庫)をシェアオフィスに充てているのも、

その一環だ。

かつてブルックリンは食品製造業の一大拠点でもあった。この名残りからか、現在も敷地内の一角にはビールやウイスキーが製造されている他、老舗「テリラス&ドーターズ」の工場も、今年ネイビヤードに移転してきた。歴史的な建物を今に蘇らせ、新たな新名所として一般公開しているのは、今のニューヨークでは見逃せない動きだ。

Brooklyn Navy Yard



敷地内の乾ドック。有名な戦艦「ミズーリ」や「アリゾナ」もここから出航した



広大な敷地の中には、ブラウンズのウイスキー蒸留所も



「ラス&ドーターズ」は、工場をマンハッタンから全てネイビヤードへ移転

Brooklyn Navy Yard

141 Flushing Ave., Unit 801
Brooklyn, NY 11205
brooklynnavyard.org

一般ツアーは通常、土・日曜日に催行。金曜もあり。大人20~30ドル